

## APHS2019 参加報告

東邦大学医療センター大森病院 総合診療・急病センター外科 本田善子

この度は APHS Scholarship 2019 に選出いただき、誠にありがとうございました。

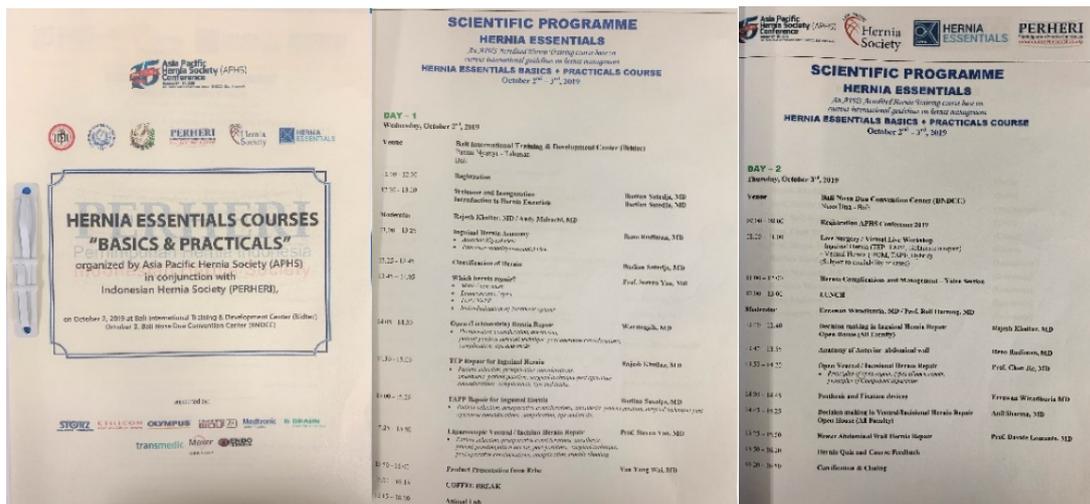
2019年5月の蜂須賀先生会長のヘルニア学会で、APHSに参加しようというお言葉を伺い、演題を出そうと決意しました。Abstract submission rules, regulation and guidelinesを全て読み、抄録締め切りの7月31日がいつのまにか8月15日まで延期され、演題を提出することができました。APHSのscheduleはOct.3rd to 5thとありましたが、予定表に2ndのスケジュールも記載されていたので(説明の記載はなかったのですが)、行くのなら学会の全てを経験しようと思い、(Workshop)Live Surgery and Hernia Essentials(後にHernia Essentials basics+ Practicals courseと記載されていました) 450USDを振り込みました。

このWorkshopは、応募要項に解説はなかったのですが、後で用紙(fig.1)を見ると、APHSとPERHERI(Indonesian Hernia Society)の合同企画と思われます。参加人数は48人でIndonesia語がわからないのは日本人の私とマレーシア?人の男性の合計2人だけでした。6人の講師の先生が術式・解剖などのお話をしてくださり、中心になる先生はおそらくIndonesia語(もしくはとても早口な英語)で容赦無く話していました。上海の先生の講義は比較的わかりやすい英語で、スライドが時々漢字でとても嬉しかったです。

2枚目(fig.2)は1日目のスケジュールです。Bitdec(Bali International Training and Development Center)という少し離れた施設で講義を受け、animal lab.でLAPの鼠径ヘルニアと腹壁癒痕ヘルニア手術を行いました。

3枚目(fig.3)は2日目のスケジュールです。本会場のBNDCC(Bali Nusa Dua Convention Center)で朝からLive Surgery(鼠径ヘルニア・腹壁癒痕ヘルニア)を見ました。Indonesia/上海など、確か3か所の中継でした。特に上海は1日に50件の鼠径ヘルニア手術(Lichtenstein)を行っているようで、その手際の良さに驚きました。午後は非常に寒いお部屋でたくさん講義を拝聴しました。「新しい手術」はRobotを用いてがほとんどでした。

fig.1/fig.2/fig.3



最後に Test(予定表では Quiz)があったはずのようでしたが、講師の「君たちは Lucky だね」の言葉で「テストが無い」ということがわかり、feed back とも記載があったのですがそれもなく、それぞれ終了証をいただきました。この Workshop 以外に他の部屋で論文の書き方などの Session もあり、内容は多彩だと感じられました。

発表は、座長から発表後直後の質問はなかったのですが、セッション全員が発表後に一人一人に丁寧に質問してくださり、座長お二人と発表者たちだけしかいませんでしたがこのような形もよいなと思いました。

今回の経験を(特に第 19 回の日本ヘルニア学会に)生かせるように、微力ながら尽力していく所存です。

改めて、選出いただきありがとうございました。